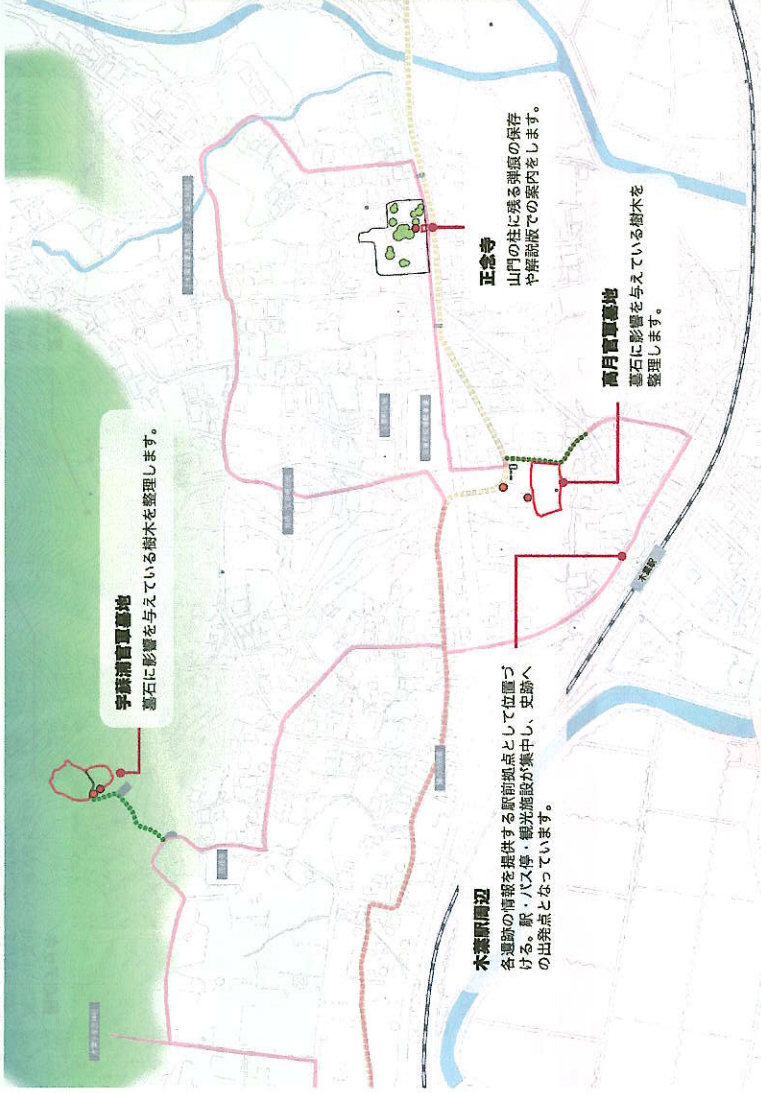


整備テーマ「西南戦争最大の官軍墓地」、「隠された官軍墓地」

整備テーマ「日本赤十字社発祥ゆかりの寺」

高月官軍墓地は現存する西南戦争最大の官軍墓地です。旧三池往還沿いに立地していますが、後に設置された宇蘇浦官軍墓地は、往還から離れた木葉山の中腹、関連遺跡である徳成寺の裏手につくられました。墓石は破損しているものがありますが、当時のままのものも多く残っています。

戦国初期には戦地になったこととあり、現存する山門には2点の小銃弾や多くの小銃弾痕が残っており、当時の戦場の様子を知ることができます。また、政府軍の大編帯所（治療施設）として使われていました。



史跡整備に関連して推進すること

史跡の公開・活用

- ・西南戦争遺跡めぐりウォーキングイベントなど今ある活用事業の充実
- ・サウンドARなど新しい活用事業の展開
- ・植栽などの整備事業に多くの人が関わることができ、事業の展開

農業景観

- ・史跡地周辺農地の維持
- ・維持のための高付加価値化や商品開発
- ・耕作放棄地の転用や有効活用

地域全体の歴史資源

- ・縄文時代など他の時代の遺跡や町の自然・暮らしなどを包括した多様な展開

人づくり

- ・史跡活用に関わりを深めている団体、学校、地域の人の協力体制を維持
- ・史跡にかかわる人をさらに増やすなどの体制強化

調査

- ・未調査部分の発掘調査
- ・当時の従軍者等に関係する方への聞き取り調査
- ・史跡地の樹木調査など

玉東町史跡西南戦争遺跡整備基本計画

概要版

基本理念

どのような戦争だったのか、現地で「見る」「知る」

この地域でどのような戦いが繰り広げられたのか、戦略など密接に関連する地形を各遺跡から見えて理解できるように整備を行います。戦争の歴史を「学び」戦争の悲惨さや現代の平和のありがたさを「想う」

フィールドミュージアムとして回遊、「想いあう」史跡へ

史跡を構成する各遺跡をストーリーに基づいて巡るコースを設定し、多様な人が訪れ、戦争の歴史について地域のひと語り「想いあう」とかてき整備を行います。また、史跡の整備活用を、「まちづくり」の一環として、行政・町民・来訪者・民間企業・学校等ような整備を行います。

当地域の自然や人々の営みそのものを財物とみなすこと

二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡 p3へ

計画の目的と目指すこと

国指定史跡西南戦争遺跡（以下、全体として「史跡」。個別のものを「遺跡」という。）の適切な保護を推進することを目的として計画を策定します。また、史跡の整備活用を、「まちづくり」の一環として、行政・町民・来訪者・民間企業・学校等あらゆる「人」が関わりながら行うことで地域の活性化を推進することを目指しています。

期間：令和4(2022)年4月から令和14(2032)年3月31日まで（10年間）



半高山・吉次峠古戦場

p2へ

横平山古戦場

p3へ



宇蘇浦官軍墓地

p4へ

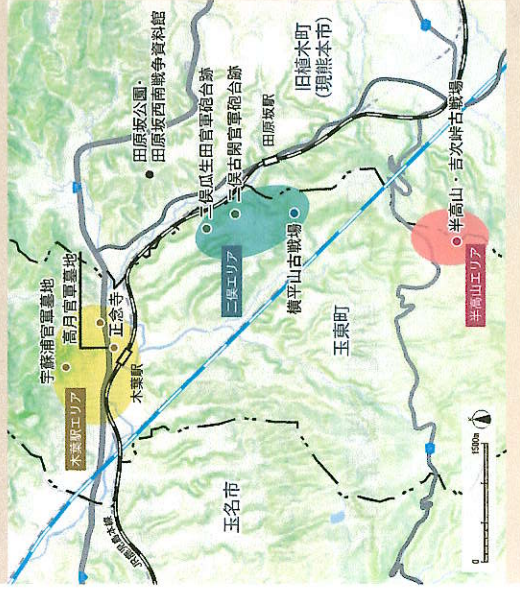
正念寺

p4へ

高月官軍墓地

p4へ

史跡全体の整備計画



地形と眺望
近代の戦争では、軍事戦略上「眺望＝見晴らし」を確保することが重要であったため、各遺跡からの眺望を保全します。

現地での展示物
わかりやすく理解してもらうために、体験できるコンテンツや、複数の遺跡を複合的に案内するシステムを整備します。

統一した案内板
田原坂エリアとデザインや名称の統一化を図り、快適に遺跡を回遊できるように工夫して設置します。

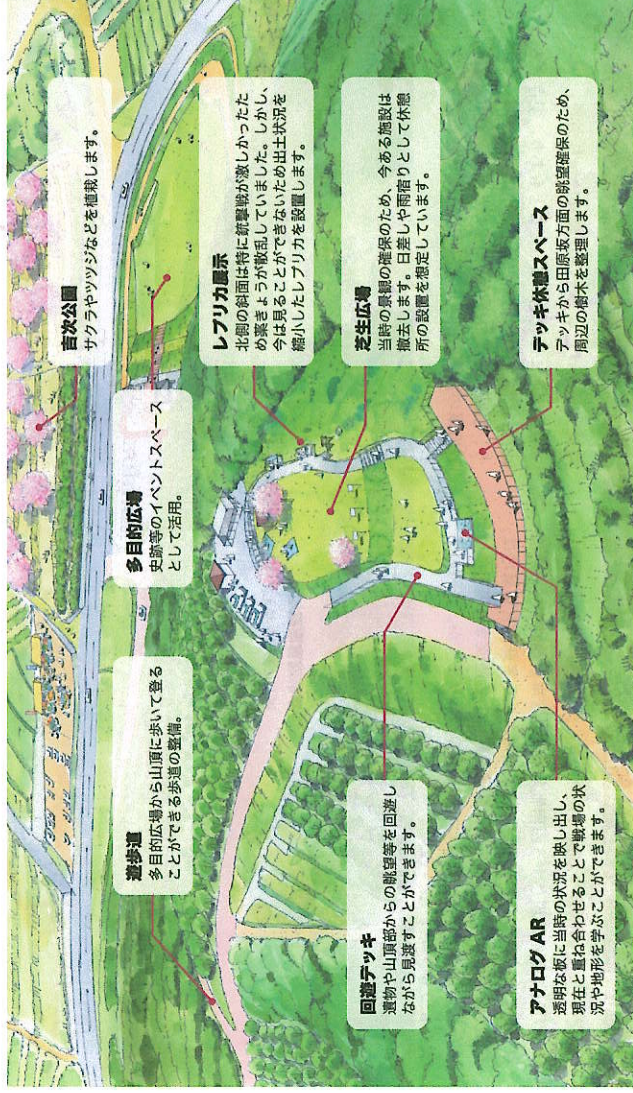
回遊
フリードミュージアム^{*}として遺跡内や複数の遺跡を回遊して巡ることを想定して整備を進めます。
※地域の自然や人々の営みそのものを博物館とみなすこと。

各遺跡の整備計画
玉東町では7つの遺跡が史跡に指定されています。現在も公園等として利用されていますが、今後さらに活用を図るために整備を行います。各遺跡の整備計画を示します。

半高山・吉次峠古戦場

整備テーマ「西南戦争歴史パノラマ」

地域一帯に広がる遺跡を見渡すことのできる高地に立地しており、軍事上重要な地点です。半高山山頂部はまさに「西南戦争歴史パノラマ」を見ることができるところです。また、山頂部分及び西側斜面は原地形がそのまま残されており、発掘調査によって小銃弾や砲弾破片等が発見されています。



吉次公園
サクラやツツジなどを植栽します。

多目的広場
史跡等のイベントスペースとして活用。

レプリカ展示
北側の斜面は特に銃撃戦が激しかったため、当時の状況が再現されています。しかし、今は見ることができないため出土状況を縮小したレプリカを設置します。

芝生広場
当時の景観の再現のため、今ある施設は撤去します。日差しや雨降りとして休憩所の設置を想定しています。

デッキ休憩スペース
デッキから田原坂方面の眺望確保のため、周辺の樹木を整理します。

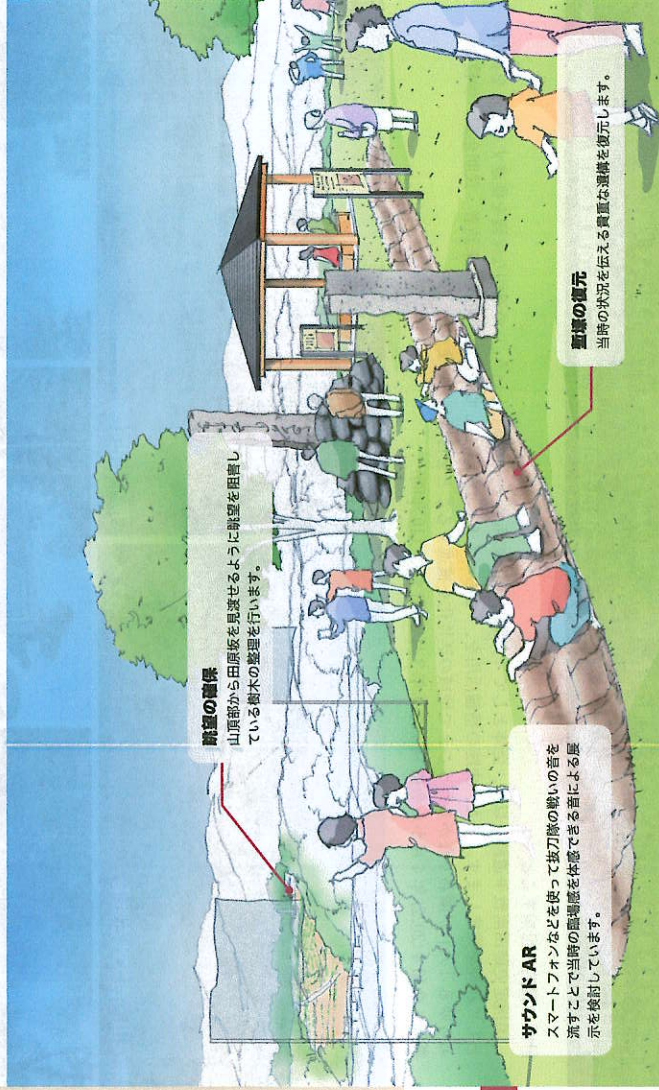
回遊デッキ
遺跡や山頂からの眺望等を回遊しながら見ることが出来ます。

アナログAR
透明な板に当時の状況を映し出し、現在と重ね合わせることで戦況の状況や地形を学ぶことができます。

横平山古戦場

整備テーマ「田原坂攻撃重要地点、抜刀隊決戦の地」

田原坂の左翼にあたる小高い山で、半高山から三ノ岳に連なる西郷軍の陣地が築かれました。山頂からは、小銃弾や薬莖、砲弾破片等が確認されているほか、塹壕（身を隠す穴）として利用された遺構が残っていることがわかっています。



眺望の確保
山頂部から田原坂を見渡せるように眺望を阻害している樹木の整理を行います。

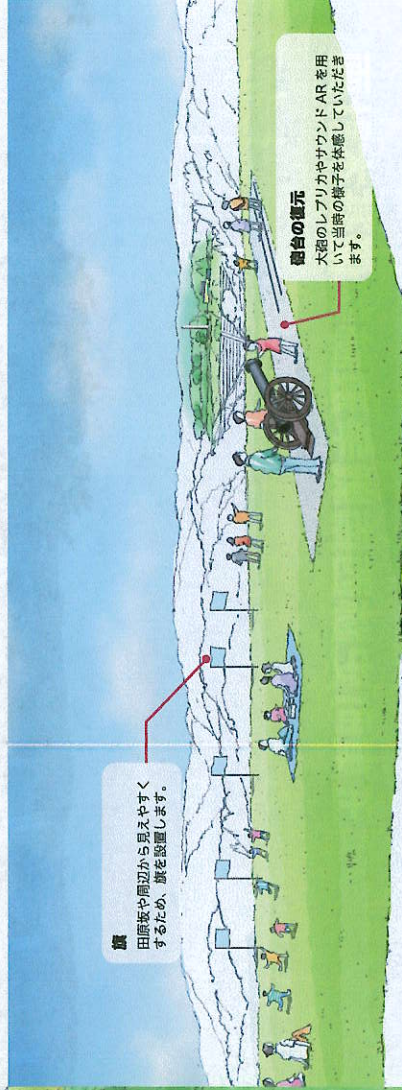
サウンドAR
スマートフォンなどを使って抜刀隊の戦いの音を流すことで当時の戦場感を体験できる画による展示を検討しています。

塹壕の復元
当時の状況を伝える貴重な遺構を復元します。

二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡

整備テーマ「田原坂砲撃最前線の地」

二俣瓜生田及び古閑の官軍砲台跡は、東に位置する田原坂とほぼ同じ標高で直接眺望することができるところです。瓜生田地区では大砲（四斤山砲）の轆と考えられる跡が発掘調査により発見されました。



旗
田原坂や周辺から見えやすくするため、旗を設置します。

砲台の復元
大砲のレプリカやサウンドARを用いて当時の様子を確認していただきます。